



ミツミ電機株式会社

**2011年3月期通期
決算説明会資料**

2011年5月13日





目次

2011年3月期決算の概要	P 3
東日本大震災の影響	P13
2012年3月期通期業績の見通し	P17
今後の経営戦略	P23

【免責事項】

この資料は投資家の参考に資するため、ミツミ電機株式会社(以下、弊社)の現状を理解いただくことを目的として作成したものです。

当資料に記載された内容は、2011年5月13日現在において、一般的に認識されている経済・社会等の情勢および弊社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。投資に関するご決定は、当資料に全面的に依拠することはお控えいただき、皆様ご自身のご判断でなされるようお願い申し上げます。



2011年3月期決算の概要

取締役 経理・総務・システム担当統括部長
齋藤 求



決算ハイライト

- ◆アミューズメント関連製品を中心に受注が減少
- ◆新興国向け低価格品の構成比拡大により、平均価格が下落
- ◆円高により米ドル建て取引製品価格が下落
- ◆中国地域を中心に事業運営コストの上昇、経費削減の遅れ
- ◆東日本大震災に伴う直接的影響は、少額にとどまった

	2010年3月期		2011年3月期		対前期比増減
	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)
売上高	207,536	100.0	187,418	100.0	△20,118
営業利益	9,416	4.5	△5,020	—	△14,436
経常利益	8,295	4.0	△6,387	—	△14,682
当期純利益	5,901	2.8	△3,541	—	△9,442
為替レート (対米ドル)	93円04銭		86円04銭 上半期89円69銭 下半期82円39銭		△7.00円の 差



2011年3月期決算の概要

決算ハイライト 対予測比較

◆ 対予測売上高増減 Δ 17億円

中国地域での人手不足により、当社の中国工場の操業度低下、顧客の中国工場の操業度低下による受注の減少

	2011年3月期 予測(2月3日発表)		2011年3月期		対前期比増減
	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)
売上高	189,200	100.0	187,418	100.0	Δ 1,782
営業利益	Δ 4,500	—	Δ 5,020	—	Δ 520
経常利益	Δ 6,300	—	Δ 6,387	—	Δ 87
当期純利益	Δ 3,900	—	Δ 3,541	—	359
為替レート (対米ドル)	上半期実績:89円69銭 下半期予測:82円00銭 通期予測:85円85銭		上半期実績:89円69銭 下半期実績:82円39銭 通期実績:86円04銭		—



2011年3月期決算の概要

震災による影響損失

◆直接的な損失 186百万円

◆間接的な損失 金額算定は困難

- ① 東京・東北電力管内の事業拠点は、3月末に通常の事業活動を回復
- ② 半導体製造ラインの休止期間は、厚木で約3週間、山形で約1週間

	2011年3月期	概 要
	金額（百万円）	
固定資産 棚卸資産	49	・水戸分室他の建屋・資産の損壊 ・福島原発10km圏内にある被災資産 (固定・棚卸資産)の滅失損失
現状回復費用	57	
休業期間固定費	80	計画停電の影響 ・半導体ライン（厚木、山形）の休止 ・本社・厚木・山形・秋田・水戸の 各事業拠点の非稼働時間の発生
計	186	



2011年3月期決算の概要

製品集計区分別売上高

	2010年3月期		2011年3月期		対前期比増減		概要
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	%	
半導体 デバイス	28,735	13.8	34,941	18.6	6,206	21.6	携帯機器向け 関連製品の受 注増加
光デバイス	11,686	5.6	13,759	7.3	2,073	17.7	携帯電話用カメ ラモジュールの 増加
機構部品	97,133	46.8	83,523	44.6	△13,610	△14.0	アミューズメント 関連の減少
高周波部品	36,113	17.4	30,978	16.5	△5,135	△14.2	モジュール製品 の受注減少
電源部品	27,326	13.2	19,407	10.4	△7,919	△29.0	アミューズメント 関連の減少
情報通信機器	6,541	3.2	4,808	2.6	△1,733	△26.5	不採算製品の 継続的撤退
売上高合計	207,536	100.0	187,418	100.0	△20,118	△9.7	



2011年3月期決算の概要

所在地別情報

(単位：百万円、%)

	売上高 (下段は構成比)			営業利益			概 要
	前期	当期	増減率	前期	当期	増減率	
日本	128,659 (62.0)	107,789 (57.5)	△16.2	1,927	△9,325	—	アミューズメント 関連製品の受注 減少
アジア	75,996 (36.6)	75,959 (40.5)	0.0	7,475	4,192	△43.9	半導体・機構部品 の受注増加 高周波の受注減少
欧州	2,107 (1.0)	2,469 (1.3)	17.2	89	138	55.1	車載部品の受注 増加
北米	772 (0.4)	1,200 (0.6)	55.4	23	154	569.6	車載部品の受注 増加
消去	—	—	—	△98	△178	—	
合計	207,536	187,418	△9.7	9,416	△5,020	—	



2011年3月期決算の概要

要約連結貸借対照表

(単位：百万円、%)

	10/3月期 (金額) (構成比)		11/3月期 (金額) (構成比)		増減金額
	金額	構成比	金額	構成比	
資産の部					
流動資産	156,154	77.1	143,800	75.0	△12,354
固定資産	46,415	22.9	48,026	25.0	1,611
資産合計	202,570	100.0	191,827	100.0	△10,743
負債の部					
流動負債	50,235	24.8	50,243	26.2	8
固定負債	3,717	1.8	1,924	1.0	△1,793
負債合計	53,953	26.6	52,167	27.2	△1,786
純資産の部					
株主資本	161,798	79.9	155,214	80.9	△6,584
評価・換算差額等	△13,181	△6.5	△15,554	△8.1	△2,373
純資産合計	148,617	73.4	139,659	72.8	△8,958
負債純資産合計	202,570	100.0	191,827	100.0	△10,743
自己資本比率	73.4%	—	72.8%	—	△0.6%



2011年3月期決算の概要

要約連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	09/3月期	10/3月期	11/3月期	概 要
営業活動による キャッシュ・フロー	27,451	30,839	5,457	売上高減少による税引前当期損失の計上
投資活動による キャッシュ・フロー	△13,180	△9,065	△13,963	事業拡大に向けて設備投資の増額を継続実施
フリーキャッシュ・フロー	14,271	21,774	△8,506	
財務活動による キャッシュ・フロー	△6,968	△4,310	△3,062	本業に注力。キャッシュアウトは配当のみ
現金及び現金同等物の 増減額	6,269	17,232	△12,521	
現金及び現金同等物の 期末残高	38,636	55,869	43,417	



2011年3月期決算の概要

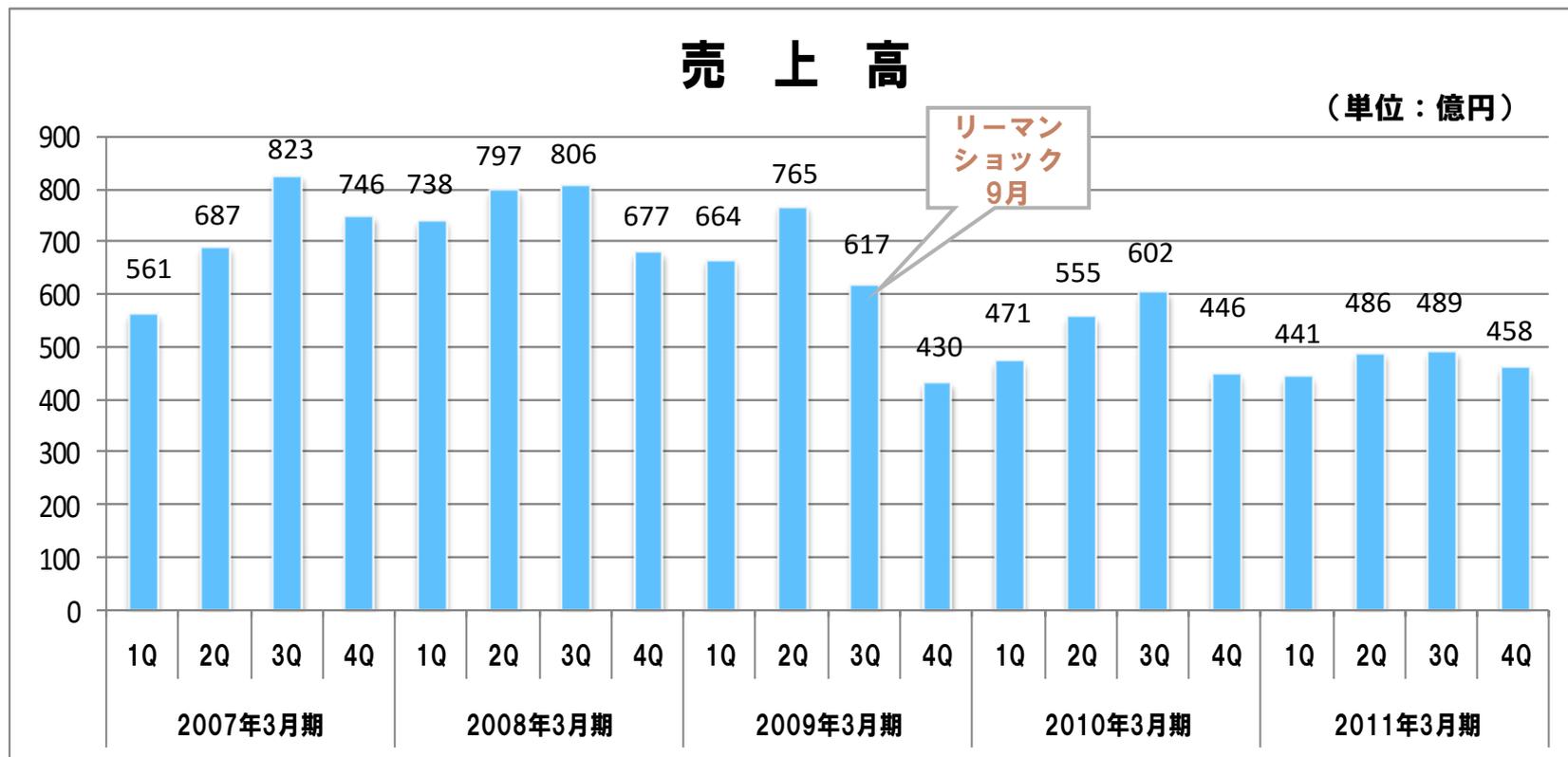
四半期毎売上高の推移

2011年3月期決算の前年同期比 Δ 約201億円

◆増加：半導体デバイス（+約62億円）、光デバイス（+約21億円）

◆減少：機構部品（ Δ 約136億円）、電源部品（ Δ 約79億円）

高周波部品（ Δ 約51億円）、情報通信機器（ Δ 約17億円）

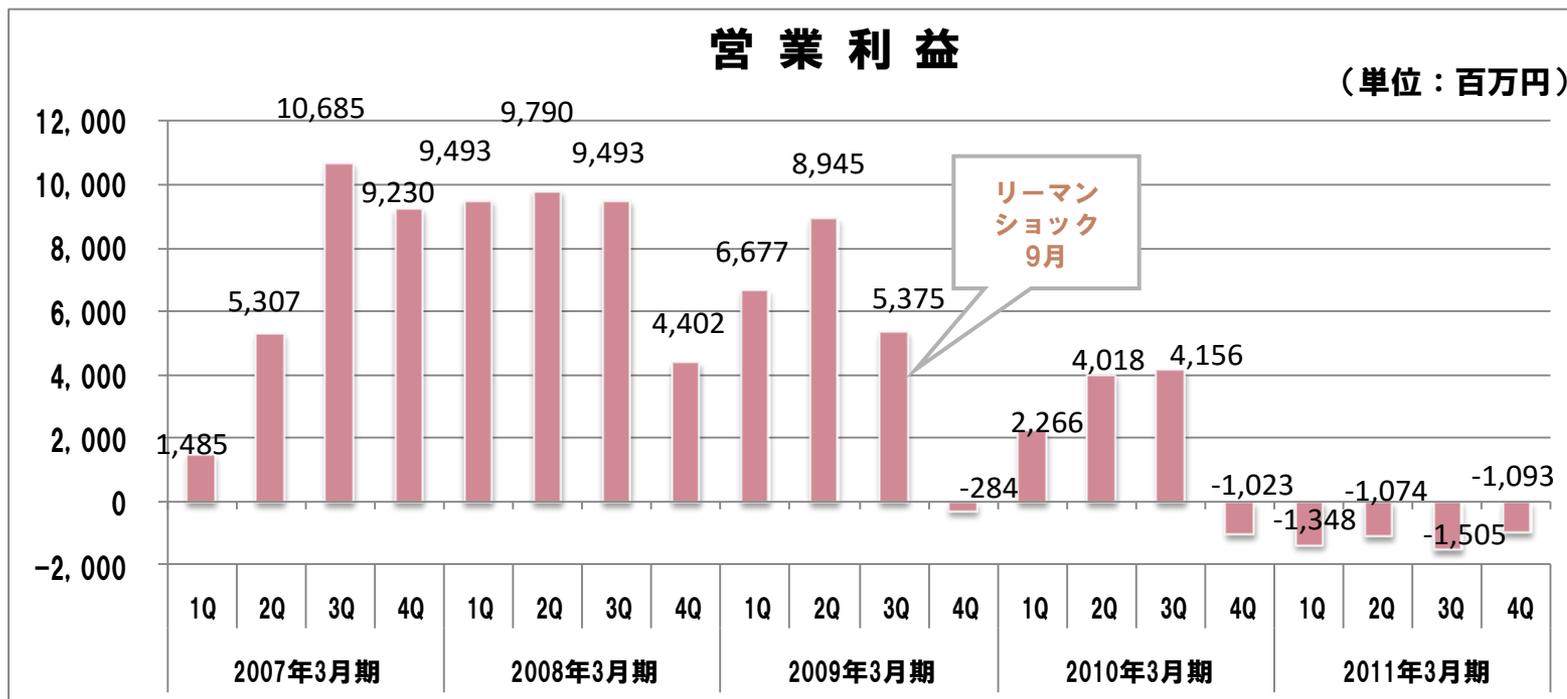




四半期毎営業利益の推移

2011年3月期決算の前年同期比 Δ 約144億円

◆減少：日本(Δ 約112億円) アジア(Δ 約33億円)





東日本大震災の影響



東日本大震災の影響

① 経過

- ・ 水戸分室 : 建物損壊、付属設備破損
- ・ 厚木事業所 : 半導体生産ラインが、約1カ月間、稼働を停止
- ・ 海外事業所 : 被災地域からの部材・部品の供給が滞り、生産が遅延

② 現状

- ・ 国内全事業所は、半導体ラインを除き、通常の事業活動を回復
- ・ 震災による製品納入の遅延等は、現時点で解消済み





③ 電力供給不足への対応

東京電力・東北電力管内の事業所において、節電による電力消費量削減と以下の個別対策により、6月中旬を目途に総量規制25%に対応できる体制を構築いたします。

半導体部門

- ・ 厚木事業所生産品の千歳事業所への移管生産
- ・ 総量規制中、厚木事業所の半導体ウェハ生産ラインの一部を休止（前倒し生産による需要対応の実施）

半導体以外の部門

- ・ 一部の機能を、国内・海外の他事業所へ一時移転



東日本大震災の影響

④ 2012年3月期の事業への影響と対応

半導体製品

- 他社供給不足による代替納入の要請があります。
（全量の対応は困難）
- 電力総量規制の実施前に最大限の在庫積み増しを行います。

半導体を除く製品

- 震災発生直後より、納期調整を行いました。
その結果、現時点で顧客要望は充足できています。

市場全体のサプライチェーンの混乱による影響

- 市場全体の部品・部材の入手難による当社に起因しない受注減少については、現時点では想定が困難です。
- 受注変動に追従すべく、今期最大の課題として「生產品目と固定費の弾力的な管理」を実施して参ります。



2012年3月期通期業績の見通し



2012年3月期通期業績の見通し1 (半期毎 売上高比較)

(単位:億円)

	2011年3月期			2012年3月期			増減		
	上半期	下半期	合計	上半期	下半期	合計	上半期	下半期	合計
売上高	927	947	1,874	900	1,100	2,000	△27	153	+126
営業利益	△24	△26	△50	△25	35	10	△1	61	+60
経常利益	△32	△32	△64	△25	30	5	7	62	+69
当期利益	△19	△17	△36	△5	15	10	14	32	+46

売上高について

<上半期>

- ・ 震災による生産調整の影響で、前年同期比で3%の減収を計画。

<下半期>

- ・ 回復に向けた増産により、前年同期比で16%の増収を計画。
- ・ 主要顧客の下半期回復計画に基づき、当社も同様の計画とした。
- ・ アミューズメント関連の拡大を見込む。

※ 震災の影響は現時点で予測が困難なため、通期で10%の市場縮小を前提とした。今後、更に変動の可能性がある。



2011年3月期通期業績の見通し

設備投資・減価償却費・研究開発費

- ◆ 事業拡大に向けた新製品投資を積極的に行う。
- ◆ 新事業・新製品の創出に向けて研究開発費は総額を維持する。

	2011年3月期 (実績)		2012年3月期 (予想)		増 減	
	金額(百万円) 下段上半期実績	売上高比(%)	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	%
設備投資	12,819 (8,145)	6.8	13,000	6.5%	+181	+1.4%
減価償却費	11,426 (4,983)	6.1	14,000	7.0%	+2,574	+22.5%
研究開発費	13,392 (6,777)	7.1	14,000	7.0%	+608	+4.5%

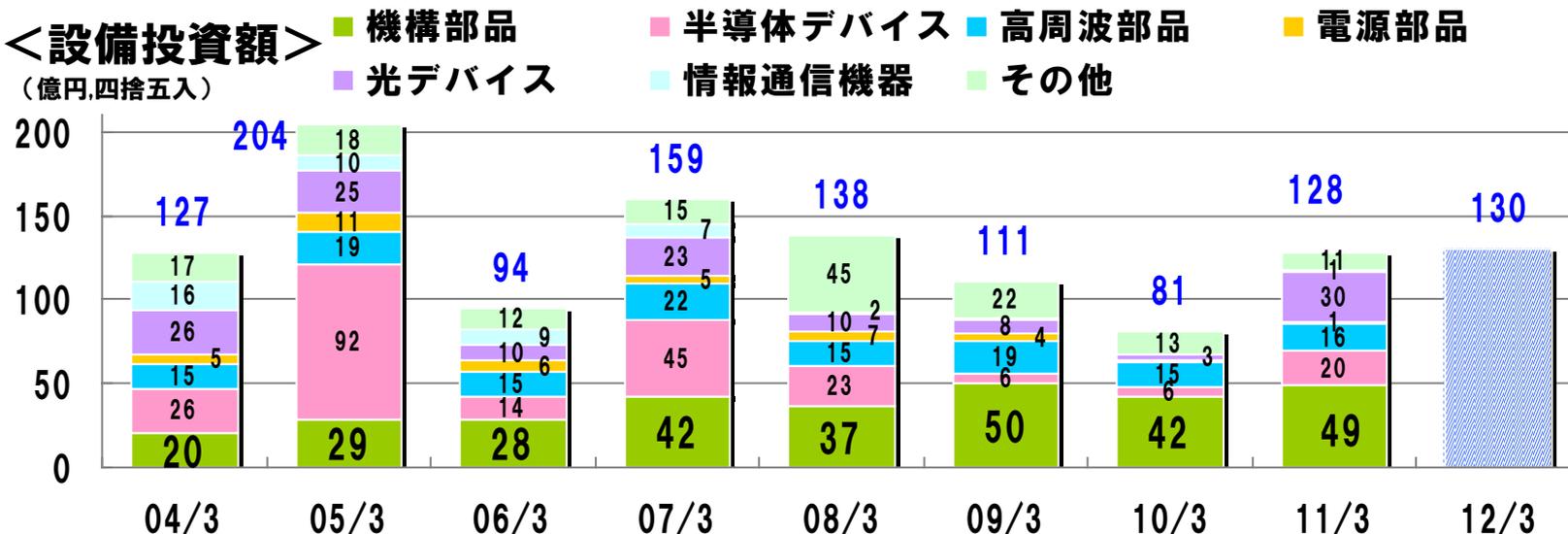


2011年3月期通期業績の見通し

設備投資額と研究開発費の推移

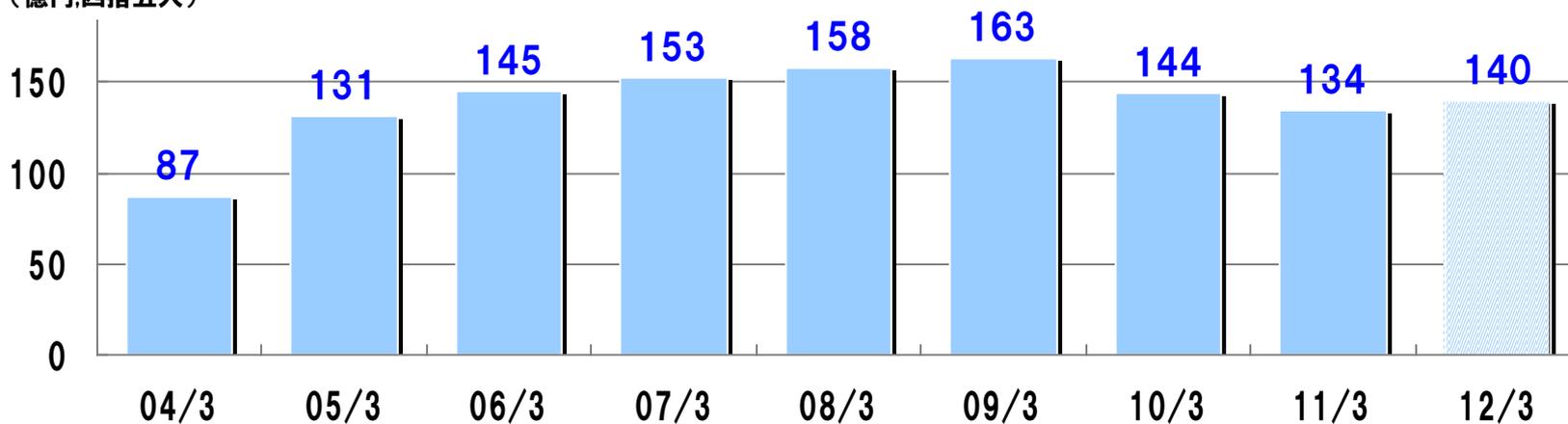
<設備投資額>

(億円,四捨五入)



<研究開発費>

(億円,四捨五入)





2012年3月期通期業績の見通し2 (半期毎 利益比較)

(単位:億円)

	2011年3月期			2012年3月期			増減		
	上半期	下半期	合計	上半期	下半期	合計	上半期	下半期	合計
売上高	927	947	1,874	900	1,100	2,000	△27	153	+126
営業利益	△24	△26	△50	△25	35	10	△1	61	+60
経常利益	△32	△32	△64	△25	30	5	7	62	+69
当期利益	△19	△17	△36	△5	15	10	14	32	+46

利益について

<上半期>

- ・ アミューズメント関連製品に搭載される内製部品の拡大により付加価値の増加を見込む。
- ・ 海外工場における固定費の適正化を推進。

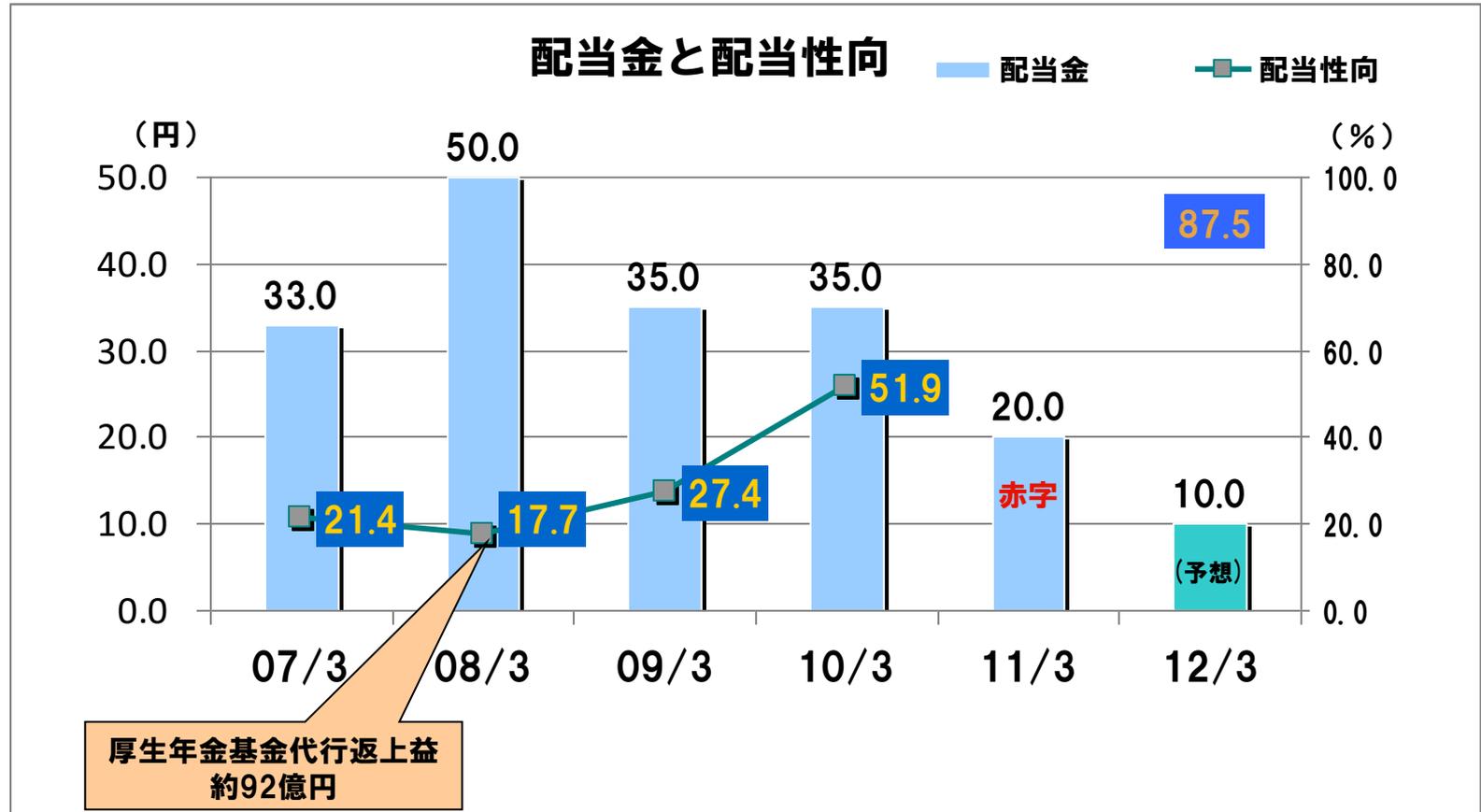
<下半期>

- ・ 上半期で適正化した固定費構造を維持し、売上高を拡大して通期での営業利益を確保。



株主還元

◆ 配当性向30%を目途とし、安定配当を目指す





今後の経営戦略

代表取締役社長
森部 茂



ご説明の概要

1. 事業環境

2. 経営方針と今後の取り組み

2-1 目標・方針

2-2 売上高3,000億円回復への推移

2-3 方針と重点施策（海外の機能強化）

2-4 製品集計区分別の取り組み



1. 事業環境



1. 事業環境

電子部品市場の中期トレンド

- 電子部品市場は堅調に拡大
- 新興国市場の拡大による低価格化の進行
- 価格競争の激化（韓国・台湾・中国資本企業の参入増加）
- 中国での事業運営コスト高騰

2012年3月期における世界経済の見通し

- 世界経済は、新興国を中心に拡大が継続
- 日本経済は、東日本大震災による影響で縮小
- 当社のエレクトロニクス市場の予測は通期で約10%減少
（上半期・前年比20%減、下半期・前年比横ばい）



2. 経営方針と今後の取り組み



2-1. 目 標・方 針

目 標

売上高3,000億円を回復する

< 方 針 >

- (1) コア技術の深掘りにより競争優位を高める
- (2) 顧客密着型の販売体制を海外で増強する

➤ 既存事業の拡大

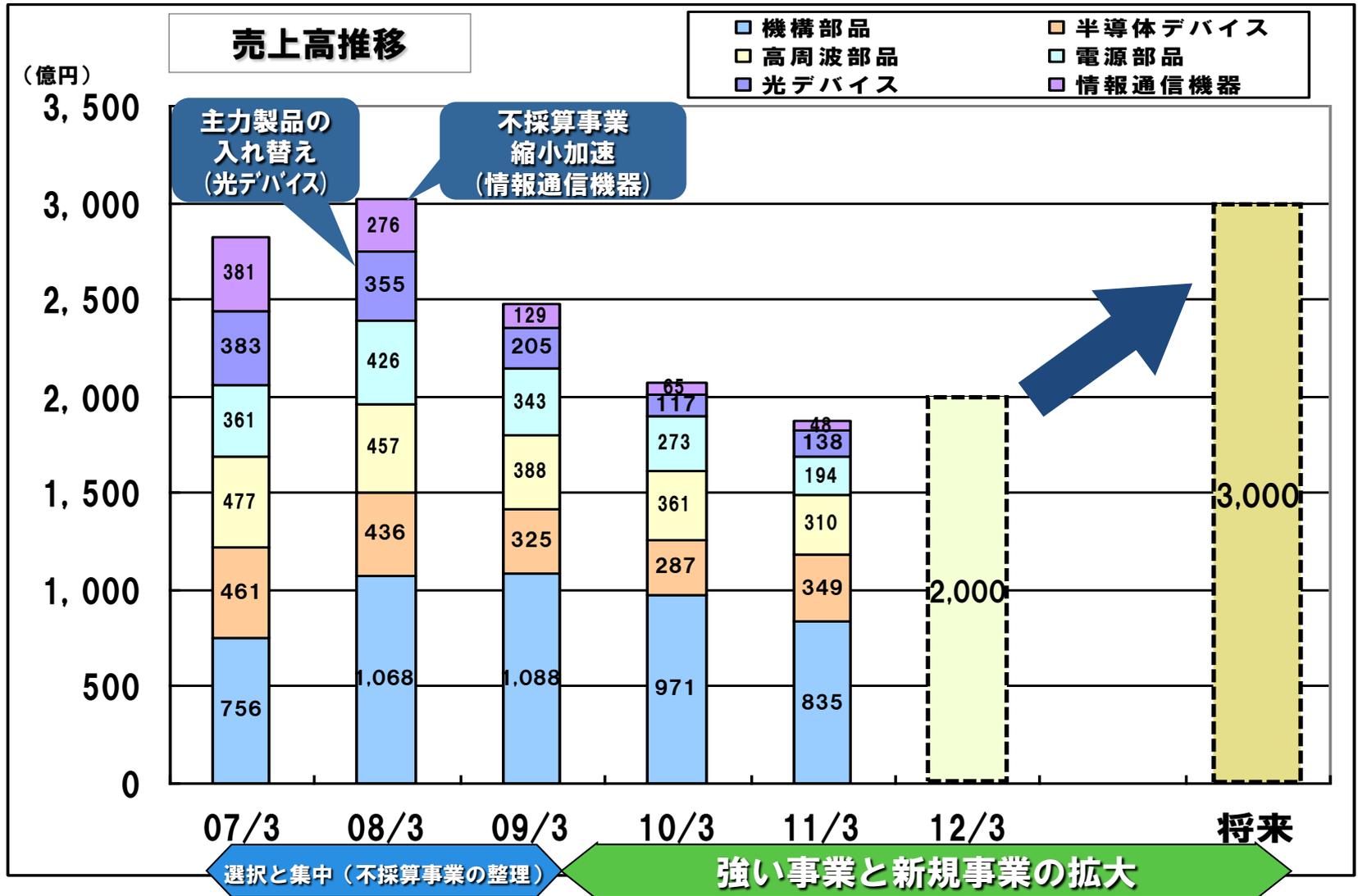
- (1) 部品事業の強化
- (2) 内製部品活用によるセット・モジュール事業の競争力強化

➤ 新規分野の取り組み強化

車載・環境エネルギー・ヘルスケアへ注力

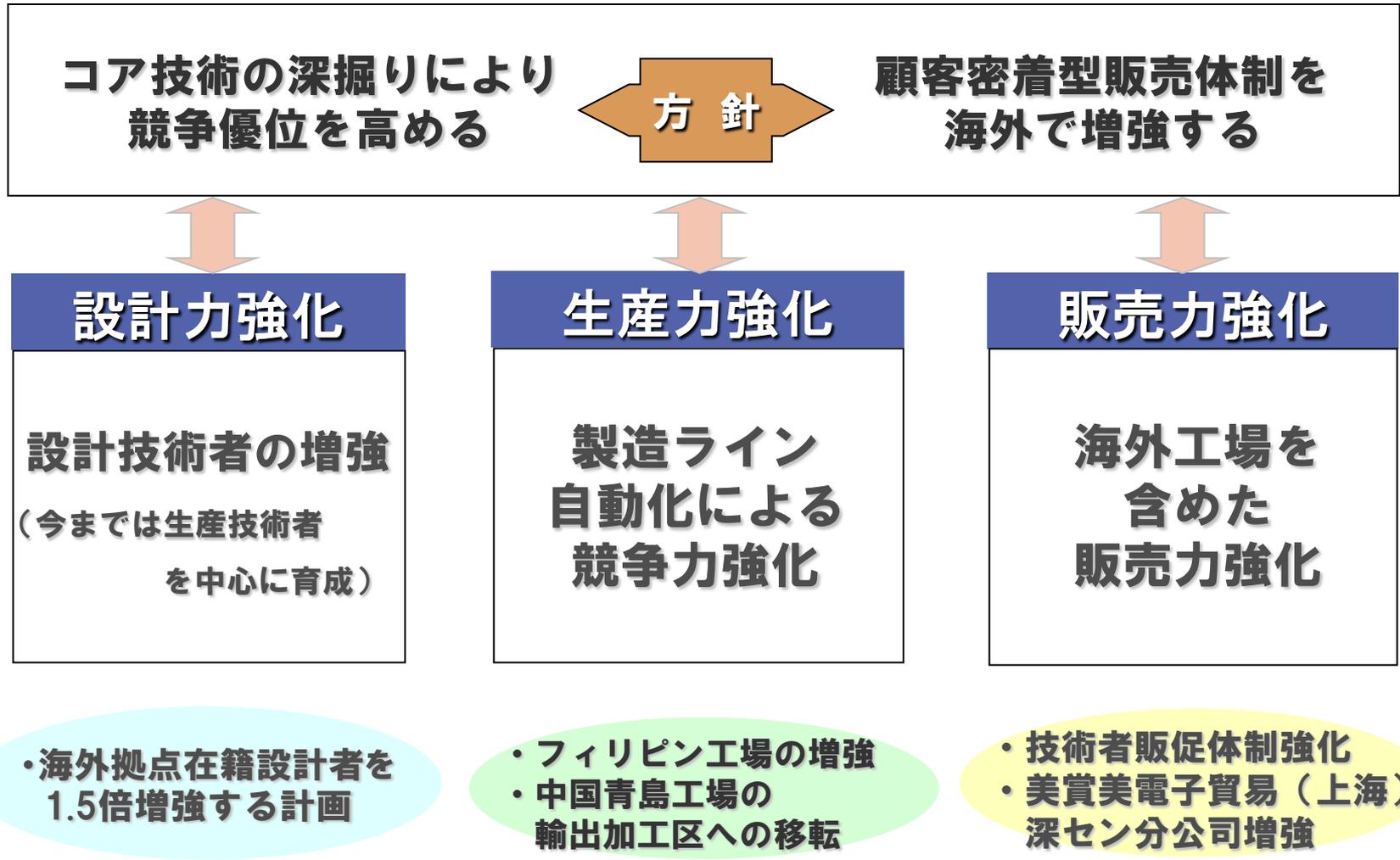


2-2 売上高3,000億円回復への推移





2-3 方針と重点施策（海外の機能強化）





機構部品事業

精密加工・組立技術の強化によって精密部品を差別化する。

セット製品でも内製部品活用により性能・コストの優位性を高める。

注力製品

- ① 携帯情報端末向けカメラ用アクチュエータ
- ② アミューズメント関連製品

光デバイス事業

高画素、小型化などの高付加価値製品で事業拡大

注力製品

- ① 携帯情報端末用カメラモジュール
- ② アミューズメント用カメラモジュール
- ③ 車載用カメラモジュール



携帯情報端末用カメラ市場

スマートフォンを中心に高機能端末が普及。
カメラの高機能化・高画素化が加速。

- ▶ **携帯電話用手振れ防止機能付きAFアクチュエータ**
今期より量産を計画
- ▶ **高画素AF機能付きカメラモジュール**
アクチュエータの特性で差別化



携帯電話用カメラモジュール

フィリピン・セブ工場の生産能力増強



2-4 製品集計区分別の取り組み その2

高周波事業

ソフトウェア技術、実装技術、半導体設計技術を組み合わせて
多様なニーズに対応

注力製品

- ① モジュール(WiMAX、Z-WAVE、GPSなど)
- ② IP-STB・簡易チューナSTB
- ③ 車載・携帯端末用アンテナ

電源部品事業

エネルギー効率を最大限に高めた製品を市場投入

注力製品

- ① LED照明用電源
- ② 携帯電話用ACアダプタの海外展開



2-4 製品集計区分別の取り組み

デジタルAV機器市場

① IP-TVの市場

- ▶ **IP-TV視聴用セットトップボックス**
 - ・ 培ったソフト資産の活用
 - ・ 各種高周波部品で差別化



IP-TV視聴用セットトップボックス

② デジタルTVの市場

- ▶ **簡易チューナセットトップボックス**
 - ・ 地上アナログ放送停波に伴う 国内の駆け込み需要を見込む
 - ・ 新興国のデジタル放送需要につなげる



自動車市場

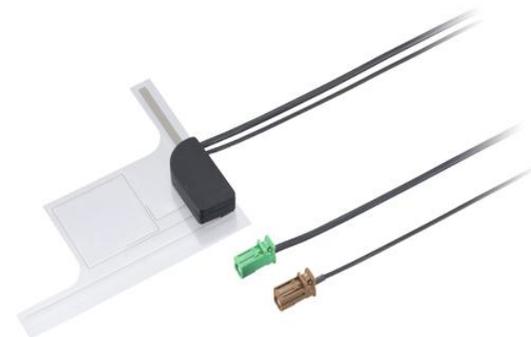
自動車ビジネスのグローバル展開

車の電子化が進み、コンシューマエレクトロニクスの必要性拡大

※高周波技術等を駆使した製品開発で差別化

現在の取り組み

GPSアンテナ、XMチューナ、コネクタ
各種インダクタ、キーレスエントリー
無線モジュール(WiFi/ブルートゥース)



複合アンテナ

今後の取り組み

新製品(複合アンテナ、カメラモジュールなど)の投入



2-4 製品集計区分別の取り組み その3

半導体 デバイス事業

アナログ半導体技術を世界トップレベルまで極める

注力製品

- ① 電源系IC
- ② リチウムイオン電池制御IC



2-4 製品集計区分別の取り組み

アナログ半導体市場

環境エネルギー分野における充電・蓄電の需要として、リチウムイオン電池の採用と電池の多セル化が急速に拡大。

▶ 2次電池関連IC、電源系IC、センサ(アナデジ含む)

これまで培ったリチウムイオン電池の制御ノウハウを活用し、高精度な残量検知や充電制御、安心・安全に使用する機能を更に高めて、充電・蓄電の市場要求に応じて参ります。



リチウムイオン2次電池用保護モジュール



IRに関する問い合わせ先

ミツミ電機株式会社
部署：総務部 広報グループ
TEL:042-310-5224
FAX:042-310-5168
MAIL:prwmaster@mitsumi.co.jp